地域を守る!

▶被災者等の支援

復旧・復興を支援する

057

平成30年7月豪雨における被災事業者の復旧支援活動

取組主体

真備船穂商工会青年部

 従業員数
 想定災害
 実施地域

 31人
 豪雨等
 岡山県

• 平成 30 年 7 月豪雨で被災した商工会会員の事業者の復旧を支援。廃業を検討していた事業者が再開を決めるなど、早期の支援が事業再開へのステップを後押しした。地域の復旧・復興を目指したにぎわい作りにも取り組んでいる。

1 取組の特徴(はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点)

被災した事業者の復旧を地区商工会と県内外の商工会が支援

- 真備船穂商工会青年部は、平成 30 年7月豪雨で被災した同地 区内の事業者の復旧支援活動を担い、各事業者の早期再開に貢献した。
- 平成30年7月、西日本一帯を襲った記録的豪雨により、4河川8 カ所の堤防が決壊し、倉敷市真備町地区は3割(1200 ヘクタール)が水没し、甚大な浸水被害を受けた。浸水の深さは南北1km、東西3.5kmの範囲で5メートルを超え、最大で5.4メートルに達したとみられている。同地区では51人の命(関連死を除く)が奪われ、地区の商工業者の8割以上である501事業者が被災した。
- 同青年部は岡山県商工会青年部連合会と連携して、災害発生直後より被災した事業者のニーズを聞き取り、復旧支援に当たった。県内外の商工会を中心にボランティアの申し出が相次いだため、他地域から集まったボランティアを調整する役割も担い、通行が可能な道路の調査や、それぞれが効率的に動ける体制づくり等も実施した。
- 被災した事業者のニーズの多くは、災害ゴミの撤去に関するものだった。水害による運搬車両の不足や、市が定める災害ゴミの仮置き場の変更など、日々状況が変化する中で、被災者の多くがゴミの廃棄に課題を抱えていた。そのような状況の中で事業者は一般家庭に比べて駐車場や資材置き場等の敷地があるため、事業者自身の災害ゴミに加え、近隣住民からの要望で災害ゴミの一時仮置き場として活用されるケースがあった。さらに不特定多数の人々が災害ゴミを置いていくようになり、災害ゴミを出すスペースが無くなることで、事業者の復旧が遅れてしまうというケースもみられた。
- 同青年部はゴミの運搬を中心とした活動から開始し、その後、事業所内のゴミの搬出、運搬、高圧洗浄機による泥出し、二次災害を防ぐための溝にたまった土砂の撤去等を行った。人的支援に加え、運搬車両や特殊車両、重機等の提供も行った。
- 豪雨災害発生の翌日の7月8日から8月3日までの活動期間で、 640名の商工会青年部員等が延べ131事業者の復旧支援活動 を行った。



被災した真備町地区



ボランティアの調整や役割分担



災害ゴミの撤去



事業所内部の復旧支援

国土強靱化

- 被災当初は廃業や転職等を検討していた事業者も多かったが、多くの支援や励ましを受け、もう一度頑張ろう、と事業の再開を決断した事業者も数多くあった。同青年部は、被災後の早い段階で事業所内を片付けることで、少しでも早く、事業再開に向けたステップに進むための手助けができたのではないかと考えている。
- 被災から2年半が経過した令和2年12月末現在では、被災した事業者の約8割超が事業を再開させ、まちに活気が戻りつつある。その一方で、同地区の人口(発災前22,797人)のうち約1割は転出、また地区外のみなし仮設住宅で生活を続ける人もいるため、売り上げ等の観点から、将来への不安を感じている事業者があるのも現実である。

民間の力で地域の復旧・復興を目指す

• 同青年部は、人口減少が進みつつある同地区を盛り上げるために、倉敷市の防災やまちづくりに関する計画策定や取組に積極的に参画するとともに、地域ににぎわいを取り戻すためのイベント等も開催している。また、今後の有事や災害時に備えるために商工会メンバーで事業継続計画(BCP)の研修や、取組の経験を共有するために他地区での講演等も実施している。





イベント「復興阿吽祭 ~冬の花火~」

2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

• 同青年部は、この活動を通じて、普段は経営者として、またライバルとして切磋琢磨している青年経済人同士のネットワークをより強固にすることができたと感じている。また、復旧支援を経験したことにより、平時から、各団体がそれぞれ災害に対する備えや、有事の際の他団体とのネットワークの構築について考えるきっかけになったと考えている。

3 現状の課題・今後の展開等

• 被災したことをきっかけに同地区からの転出者も増えており、人口減少のペースが加速している状況である。同部は、人口減少を食い止めたり人口を増やしたりすることは難しいが、地域内での活動や関わりを持つ人(活動人口・関係人口)を増やすことで、活気のあるまちづくりを目指していきたいと考えている。

4 周囲の声

• 折れそうになった心を支えてもらった。もう一度ゼロから仕事を始めたい。(被災した事業者)

担当者の声

• 被災地として、支援を受け入れるための「受援力」が重要だと実感しました。日々変わっていくニーズを的確に把握し、皆様からのたくさんの善意を無駄なく活かすことを考えていました。地元だけでも、他地域の事業者だけでも充分な活動は難しかったと思います。被災地として、しっかりと復興をしていくことが、今回の復旧支援活動にご参加いただいた皆様へのお礼になると考えております。

問合せ先

サイト URL

真備船穂商工会

TEL: 086-698-0265 FAX: 086-698-0203

